

セアカゴケグモの話

セアカゴケグモ

1995年に毒ぐもとして知られているセアカゴケグモが、大阪湾の周辺の港で大量に発見されました。テレビや新聞で報道され、問題になったことは皆さんの記憶に新しいところだと思います。ところが、そのセアカゴケグモが徐々に生息場所を広げています。京都市内では生息していることが確認されていませんが、昨年、京都に近接した大阪府島本町の淀川河川敷で多数発見されました。

クモの毒

クモは昆虫や小さな生物をえさにしてしています。そうしたえさを取るために、クモには牙があり、その牙にはほとんどの場合、毒があります。だからといって人に害を与えとは限りません。ほとんどのクモが人に対して無害なのです。セアカゴケグモは、元々生息していたオーストラリアなどで人がかまれて死亡する事例があったことから、大阪で大量に見つかったときには心配されましたが、日本では今までそうした死亡事故の報告がなく、また、かまれた被害そのものの報告も少ないようです。

セアカゴケグモの特徴

メスの体長は、1cm程度です。特徴的なのは体の色です。体は黒色ですが、背面に写真のような真っ赤な模様があります。こんなに明瞭な特徴があるのは、毒グモであることを誇示しているように思われます。



セアカゴケグモ

被害

ハチの仲間には、人が巣に近づいたりすると攻撃してくる種類がありますが、クモの仲間は人に向かって攻撃することはありません。セアカゴケグモも人を好んで攻撃することはない、むしろ巣に刺激を与えると巣から逃げ出します。こうしたことから、被害は、人がセアカゴケグモがいることを知らずに素手（素肌）で接触したときに起こります。

草刈、野外の掃除などを行うときに手袋、長袖、長靴など皮膚の露出部分を少なくすることはセアカゴケグモだけでなく、色々な害虫から身を守るための一つの方法です。

巣の形、巣の場所

地面、コンクリートなどのくぼみやすき間を利用して、立体的で不規則な巣を造ります。

退治の方法

もしセアカゴケグモを見つけたら、市販のスプレー式の殺虫剤を噴霧することで退治できますし、ほうきなどで巣ごとかき取るのも一つの方法です。

移動の方法

このクモ自身が、はいかいをして遠くに広がっていくことはあまりできません。むしろ、建築資材、輸送用のコンテナ、車などに巣をつくり、そのまま運ばれて遠くへ行くといわれています。最初大量に発見されて問題になった場所は、大阪府や三重県の港であったことから、元々生息していたオーストラリアから船にのって、資材やコンテナなどに紛れ込んで日本に侵入したのではないかとされています。京都においても、生息が多数確認されている大阪の港から頻繁に資材が運搬されるような場所などでは、セアカゴケグモが侵入してこないか注意が必要です。